

## 〔中小企業の目〕（兵庫）

### これまでの60年、これからの60年

千石 唯司  
（株式会社千石）  
代表取締役



弊社は昭和28年、私の父である初代社長 千石 嵩が兵庫県の中央に位置する加西の地で三洋電機(株)の二次下請けとしてプレス加工業を開始し、二代目として私が社長に就任した後、さまざまなお客様から製造委託をいただく中で技術力・製造力の向上に努めてまいりました。

現在は業界大手のお客様から受託したOEM製品以外に給湯器部品、食洗機、浴室乾燥機や自社ブランドである「アラジン」「グリーンウッド」でも積極的に展開を図り、家庭用電化製品・石油およびガス暖房機・調理器など「電気」「石油」「ガス」をエネルギー源とした製品の企画・開発から製造・販売・アフターサービスまで一貫して行っております。また、日本以外にも中国広東省に製造拠点を2箇所、北米と中国上海に販売拠点を有し、日本はもとより北米・南米・ヨーロッパ・中近東・中国など世界各地のお客様にご愛顧をいただいております。今後は「China + 1」への進出を含め、よりワールドワイドな展開を目指しております。

おかげさまで、弊社は平成25年に創業60周年を迎えました。

「還暦」を迎えこれまでの60年を振り返り、気持ちもあらたに、激動するであろうこれからの60年を乗り切るべく「変化・変革」に果敢に挑戦していきたいと考えております。これまでの60年の中で、何度も決断を迫られる局面がありましたが、最大の難関は「三洋電機の下請けからの脱却」を決めた時でした。普通に考えれば、強烈なアゲインストの風の中で迎えたピンチです。ただ当時、私には永遠に下請けを続けるという選択肢はありませんでした。やるなら今しかないと考え、なんとかこのピンチをチャンスに変えたいという思いで全社一丸となって取引先の開拓に努め、幸い新規のお取引先様を獲得することができました。この決断がなければ、中国に進出することもなかったと思います。

そしてこの拙文が皆様のお目に留まることもなかったでしょう。

その後、新たな出会いがありお客様に恵まれ、いろいろな製品をご愛顧いただきました。そしてもうひとつの出会いによって現在の主力ブランド「アラジン」の販売を平成17年に開始いたしました。石油ストーブに始まった「アラジンブランド」の製品ラインアップ拡充を図り現在に至っております。昨年は創業60周年を記念して、「アラジンブランド」で初のテレビCMを手掛けました。80有余年愛されてきたブランドではありますが、良いものをもっと多くのお客様にお届けしたいという思いで日々生産、販売しております。さてこれからの60年に目を向け

ますと、外部環境の変化に耐えうるためにもさらなる多角化が必要ではないかと思っております。

従来の暖房器具中心の製品ラインアップから夏物・通年製品の拡充による生産・販売の平準化を図ります。

またシルバー層を対象にした商品開発や従来とは異なった切り口によるオリジナリティーに溢れた製品作りを志向いたします。そのために、近年は新卒者、なかでも技術系社員の採用を積極的に行ってきました。若い感性に大いに期待したいところです。

主力製品である暖房器具において、平成24年には「0.2秒で暖かくなるグラファイトヒーター」の生産を開始いたしました。従来品に比べて極めて短時間で暖房効果が得られる画期的な製品だと自負しておりますが現在、この製品は弊社の独占生産となっております。今後、このグラファイトヒーターの用途拡大により暖房器具だけではなく、様々なステージでの活用を消費者の皆様へ提案し新たな市場の開拓を実現したいと思っております。このように夢は大きく膨らんでおりますが、かたや生産面での改革も避けては通れません。ご認識のように生産拠点としての中国は人件費の高騰が著しく、従来の考え方ではコスト的にも通用しなくなってきています。ただ部材の調達容易性など依然として、中国にはものづくりをしていくうえでのメリットも存在しています。

このメリットを最大限に活用するためにはマンパワー依存型の生産形態から一定の機械化やモジュール化をすすめるなど、積極的に製造改革を推進していくことが必要です。同時に組織がいままで以上に活性化するよう新たな施策を果敢に導入する経営改革も求められています。

円安が当たり前の状態になった今、このような改善努力なくして従来のようにメリットを享受することはできません。現地法人にも一定の権限を付与し、優秀な人材の育成と適切な人事政策、処遇を行うことによってしか自律的な組織は生まれません。

これは言い換えれば、指揮命令系統に曖昧さをなくし管理職が自分の置かれたポジションにおいて責任をとる、出来ない言い訳をゆるさない体制をつくるということです。精一杯努力して成果をあげれば評価され、それに見合った処遇をされる組織ならやる気のある社員は必ず期待に応えてくれるはずです。そのような組織にするためには若手で優秀な人材の抜擢や思い切った権限委譲も必要です。ここだと思った時に思い切って決断すること、それができるのは経営トップだけです。そのためにも普段からアンテナを高くあげ感度良く、各方面の情報収集に努める必要があると思います。

これからの60年を乗り切っていくためには経営理念である「わが社は世界的視野に立ち、顧客の要求に応じて、優れた技術力により高品質で廉価な製品を供給する。」のもと、外部環境の変化に柔軟に対応しながらも、ぶれない経営を徹底していきたいと考えております。従来にも増して、消費者の皆様から信頼され、安心して使用していただけるものづくりを徹底していきます。

今後もステイクホルダーである皆様方のご期待に沿えるよう一層努力いたしますので引き続き変わらぬご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回、このような機会をいただいたことに対し関係各位に改めて御礼申し上げます。